

※本応募作のフォントは、SDGs 推進の一環として当市がすでに導入している株式会社
モリサワの「UD(ユニバーサルデザイン)フォント」を使用。

ボクらは、それを“山辺”と呼ぶ

～「オシャレ・カワイイ」×SDGsが

コロナ禍の観光を守る～



Inabe City

三重県 いなべ市



(一社)グリーンクリエイティブいなべ

海辺のような
「オシャレ」
「カワイイ」
が街を守る。
サステイナブルに、ね。





「グリーンクリエイティブいなべ」のまちづくり

2019年5月18日、市の新庁舎隣に行政の**グリーンインフラ**(※1)商業施設「にぎわいの森」がオープン。パン屋、ホットドッグ屋、タピオカ等のカフェ、デリ・フードブティックの店舗が集い、**年間で44万人超の来場者**でにぎわう。

ここを拠点にいなべ市では、**カジュアル**(※2)なSDGsに資するまちづくり「**グリーンクリエイティブいなべ**」を推進している。



※1 いなべ市における「グリーンインフラ」とは

未活用の森林や自然の機能をうまく利用した施設。CO2を削減し、土砂災害防止、地震減災、獣害予防等といった機能がある。

※2 いなべ市のSDGs推進における「カジュアル」の定義とは

SDGs 推進を論理的に説明するのではなく、「オシャレ」「かわいい」といった共感が生まれるデザインや事業を通して幅広い世代に訴求すること。

自治体SDGs推進評価・調査検討会(内閣府)が「地方創生SDGsと新型コロナウイルス感染症に関する検討ワーキンググループ」を発足させ、注目を集めている。

SDGs未来都市 **oblige**(オブリージュ、責務)

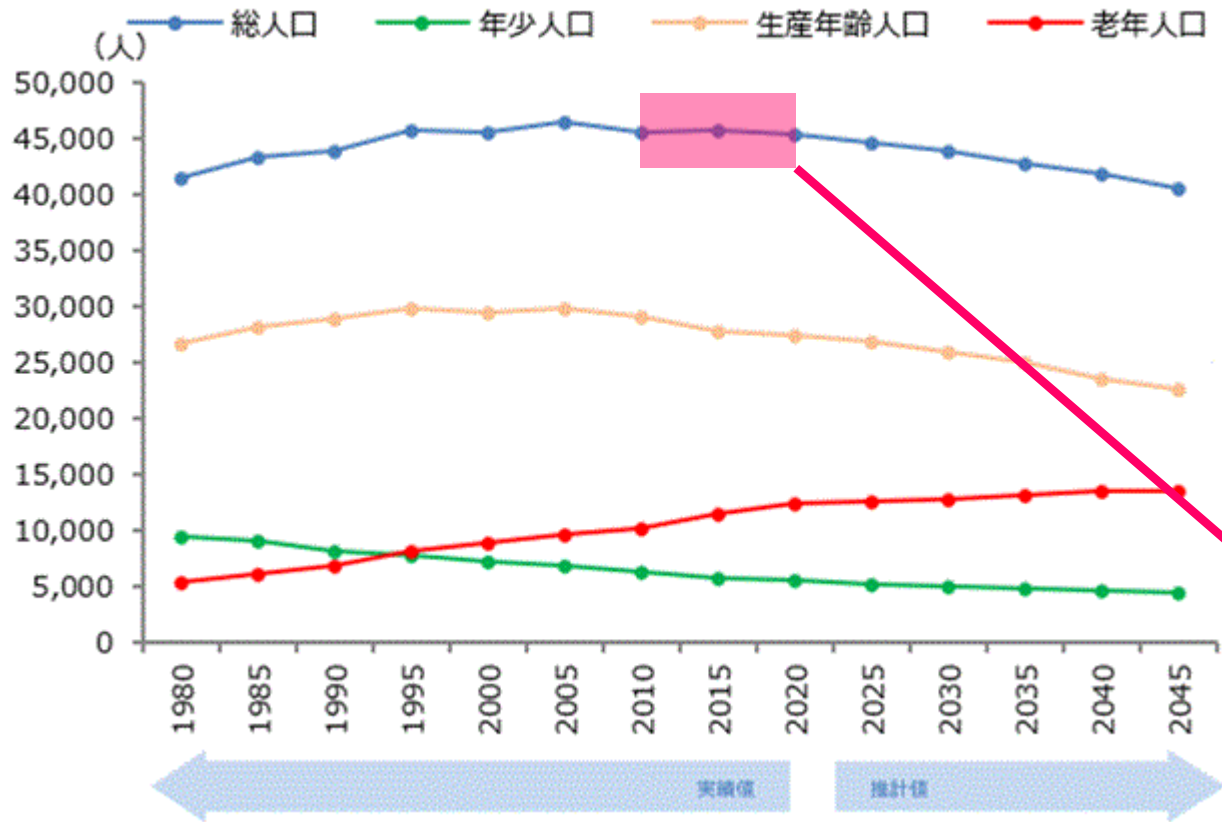
SDGs未来都市であり、東海地区初の自治体SDGsモデル事業に選定された
われわれ三重県いなべ市には、
全国のどこの都市よりも先んじて、SDGsの枠組みの下で、
コロナ対策と地方創生による繁栄を体系化する**責務がある。**

この政策提言では、コロナ対策としての「**ニューノーマル**」(「新たな日常」や「新しい生活様式」)の実現に向けた、**SDGsの枠組み**での地方の繁栄を示すものとする。

いなべ市は、鈴鹿山脈の麓に広がる街
 ……自然の神秘に満ちている！



人口推移



人口は、
 ここ10年
 横ばいをキープ

東海エリアの奥に位置し、三重県の最北端、岐阜県及び滋賀県に接する、東西文化の交流地。
 滋賀県と分かつ鈴鹿山脈の麓にあり、キャンプやサイクリング等のアウトドアが人気。

面積	219.83km ²
人口	45,815人
世帯数	17,106世帯
人口密度	208.40人/km ²
高齢率	25.6%
(H27年国勢調査)	

出典:RESAS「人口マップ」
 (2020年8月26日取得)

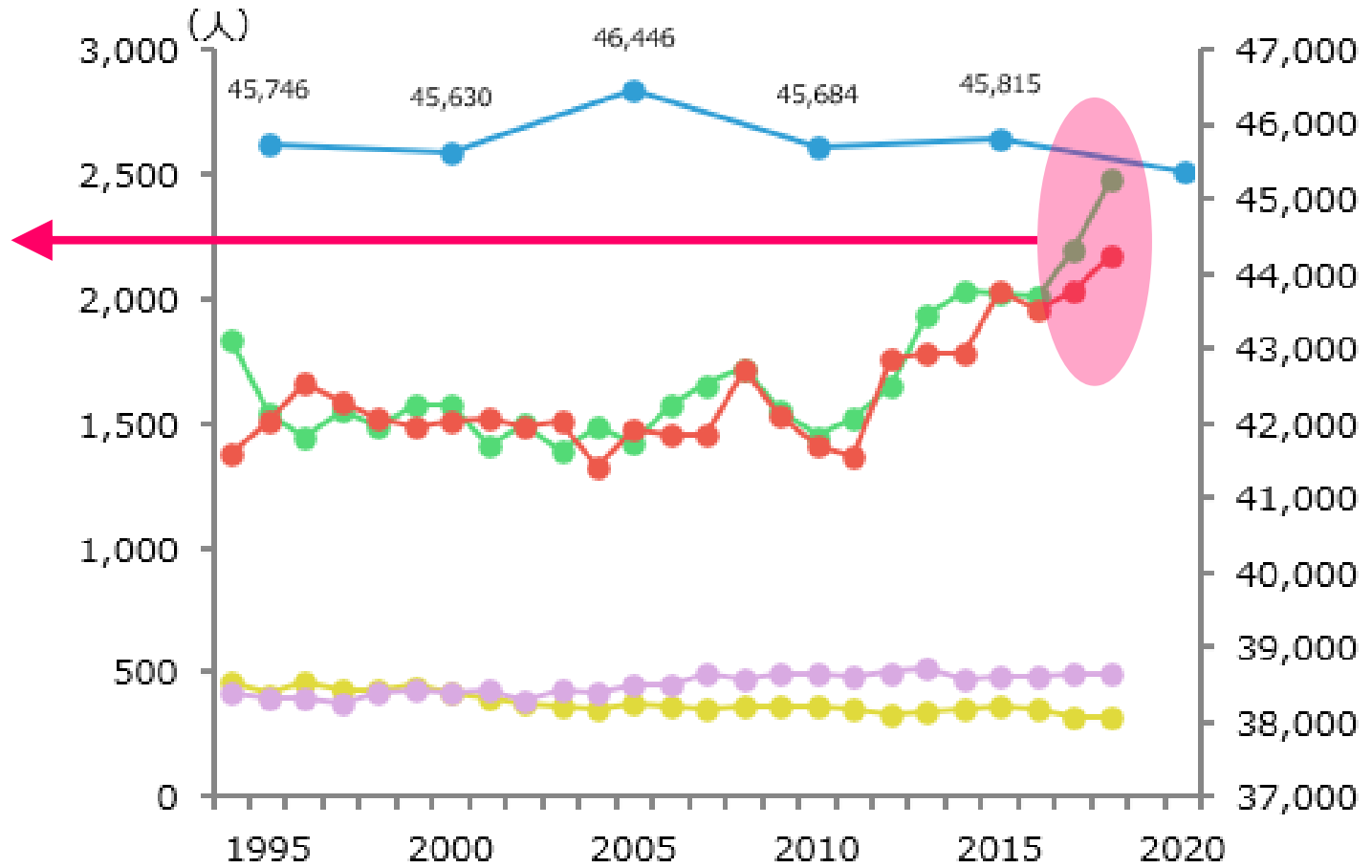
・SDGs未来都市として評価をしていただいた
「**グリーンクリエイティブいなべ**」
のまちづくりを開始して以降、転
入数が増加。

→まちづくりに一定の効果がある
と推測

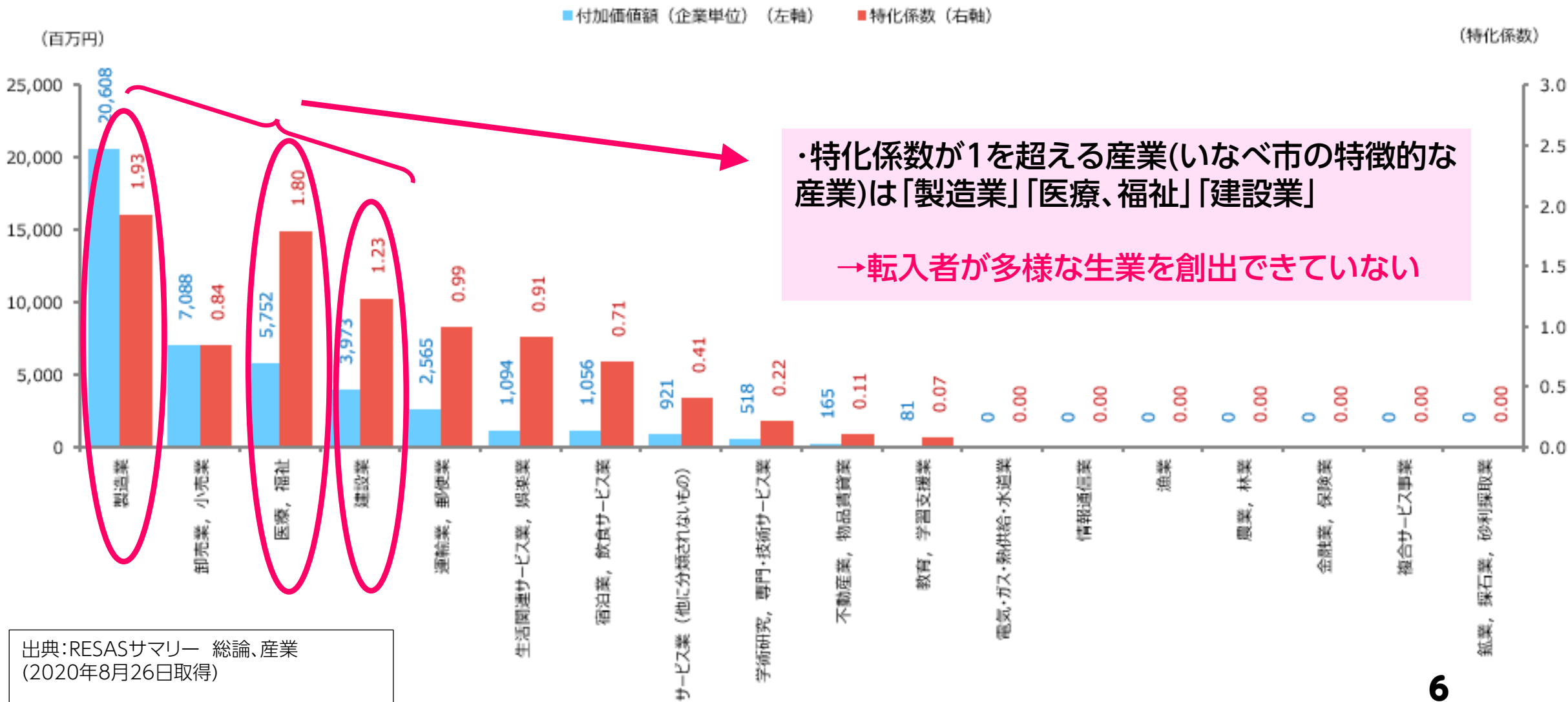
出生数・死亡数 / 転入数・転出数

- 転入数 (左軸)
- 転出数 (左軸)
- 出生数 (左軸)
- 死亡数 (左軸)
- 総人口 (右軸)

出典:RESAS「人口マップ」
(2020年8月26日取得)



産業大分類別に見た付加価値額(企業単位)

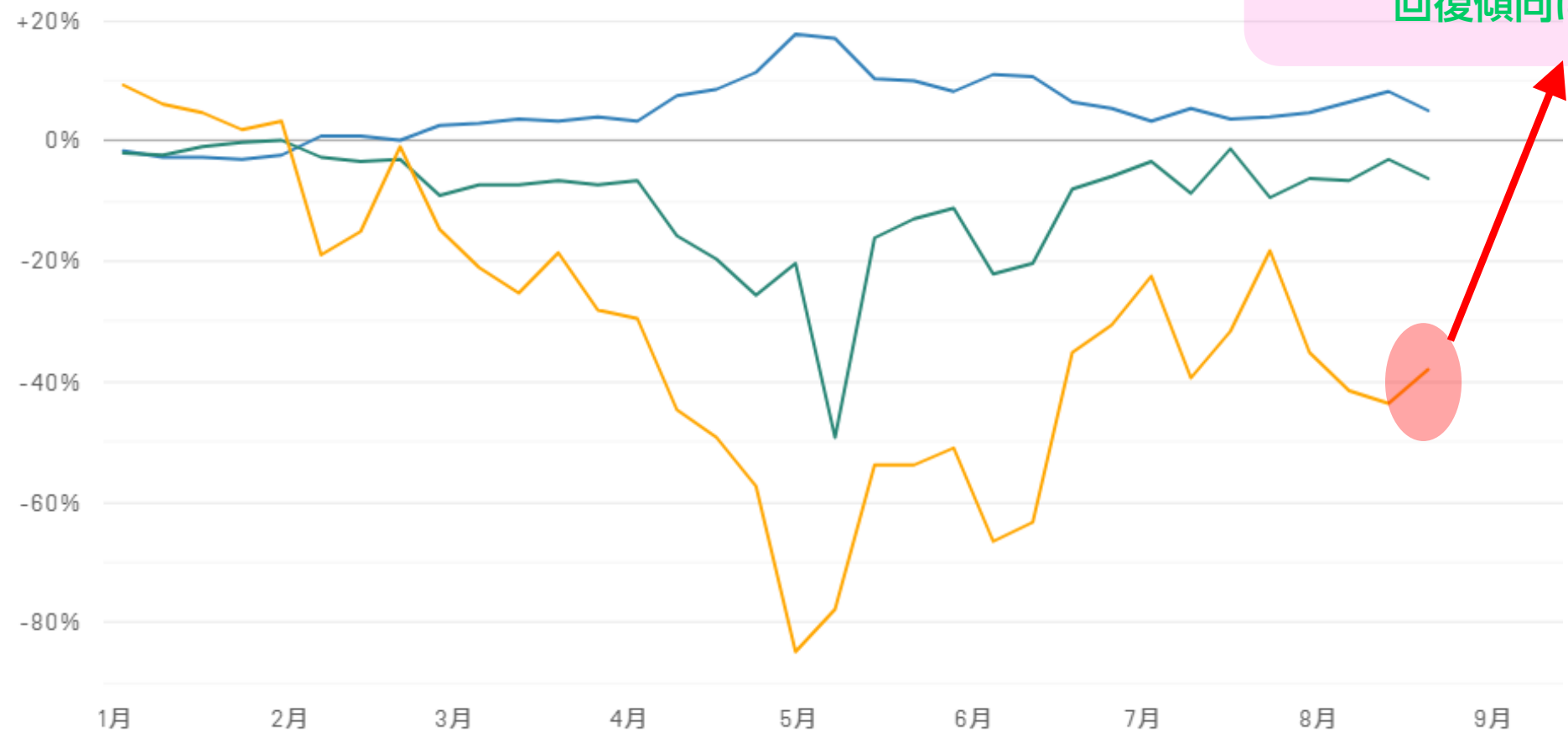


出典: RESASサマリー 総論、産業
(2020年8月26日取得)

三重県「滞在人口の動向」 推定居住地ごとの前年同週比の推移・すべての時間帯

滞在人口の推定居住地:

■ 市区町村内 ■ 都道府県内 ■ 都道府県外



・8月以降、県外から訪れる人が増加
→コロナ禍の客数減状態から回復傾向にある

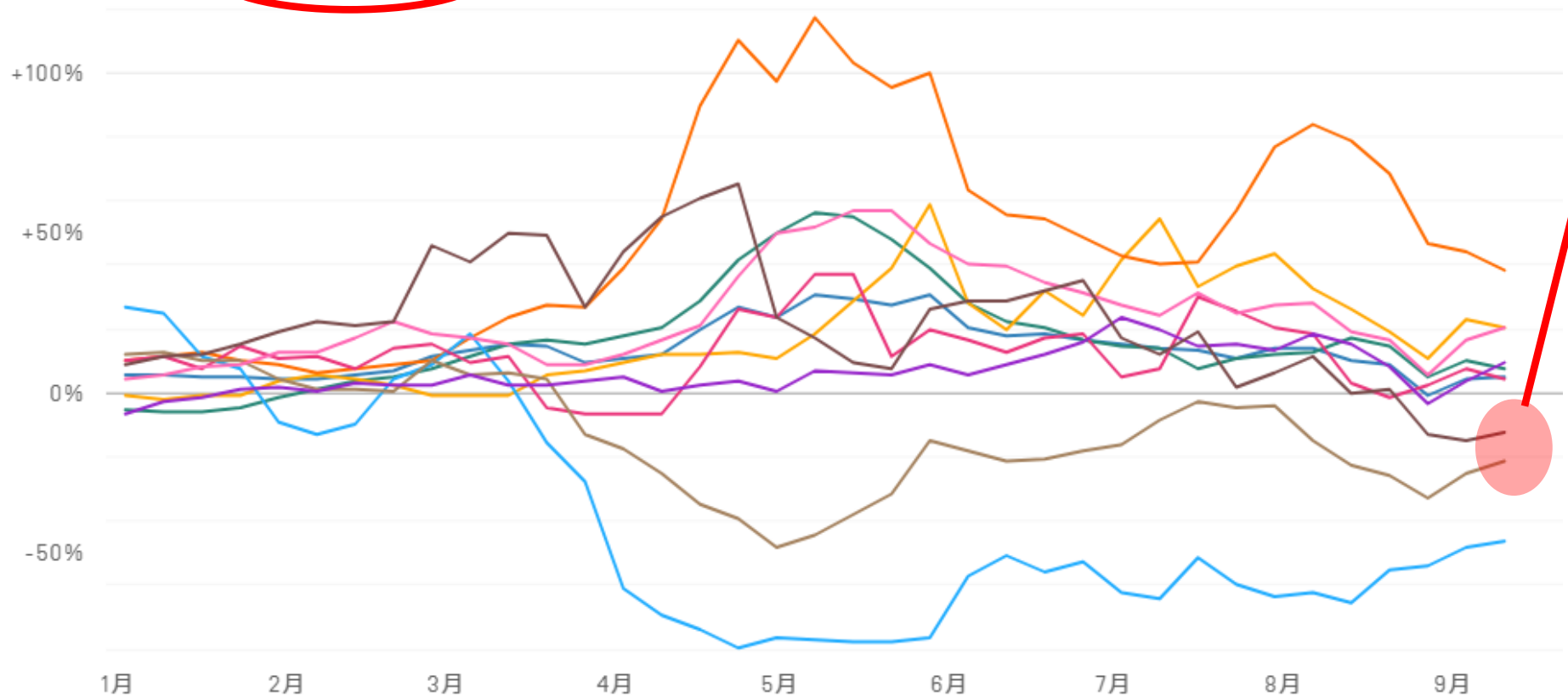
出典:V-RESAS「人流」
(2020年8月26日取得)

「三重県」キーワードの検索人数 「生活」カテゴリごとの前年同期比の推移

・「観光・旅行」「レジャー・遊び」の
検索数が 8月以降増加
→自然豊かないなべ市のアウトドアは
県外からの観光誘客にうってつけ

検索カテゴリ:

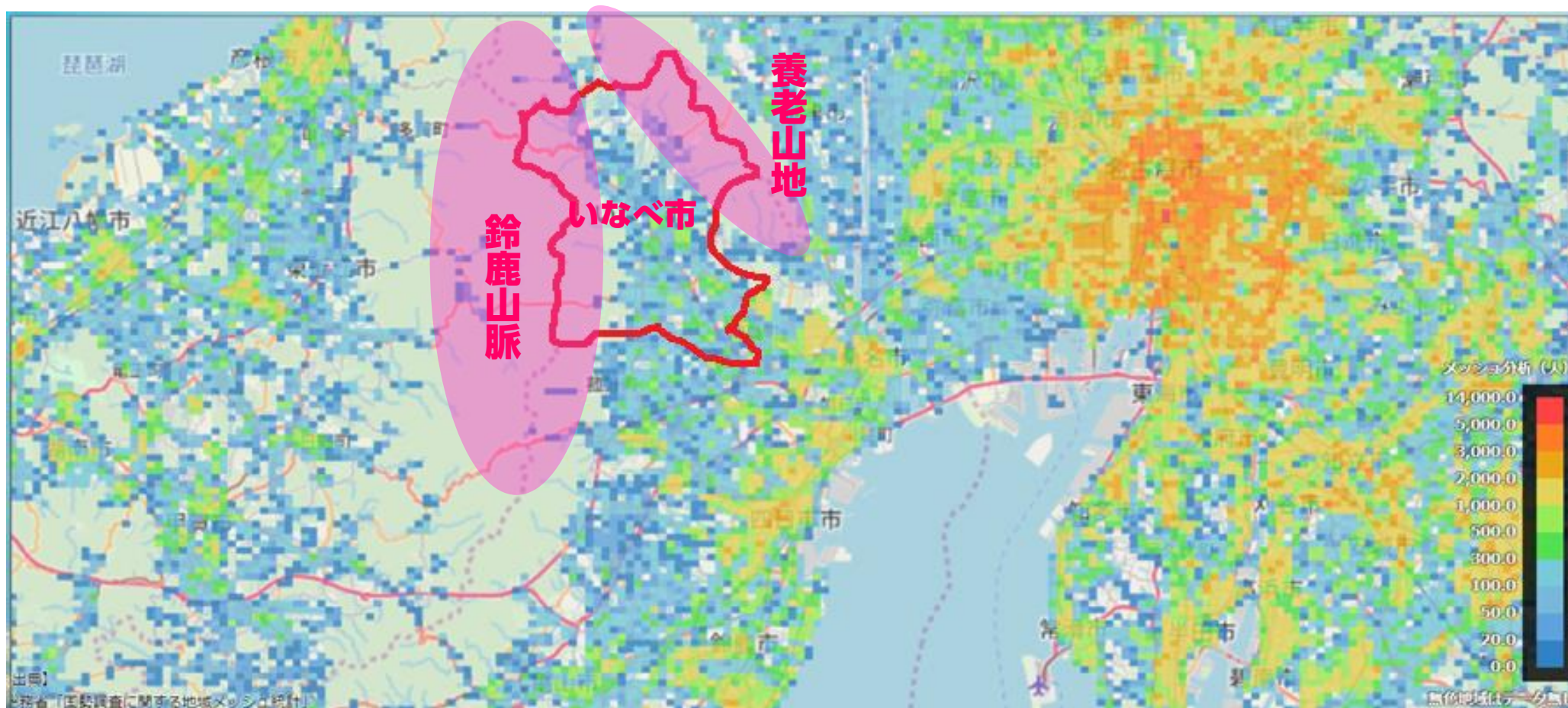
- すべての消費カテゴリ
- ネットショッピング
- ファッション
- 店舗
- イベント
- ギャンブル
- 旅行・観光
- 美容
- 自動車・二輪車
- レジャー・遊び



出典:V-RESAS「興味・関心」
(2020年9月30日取得)

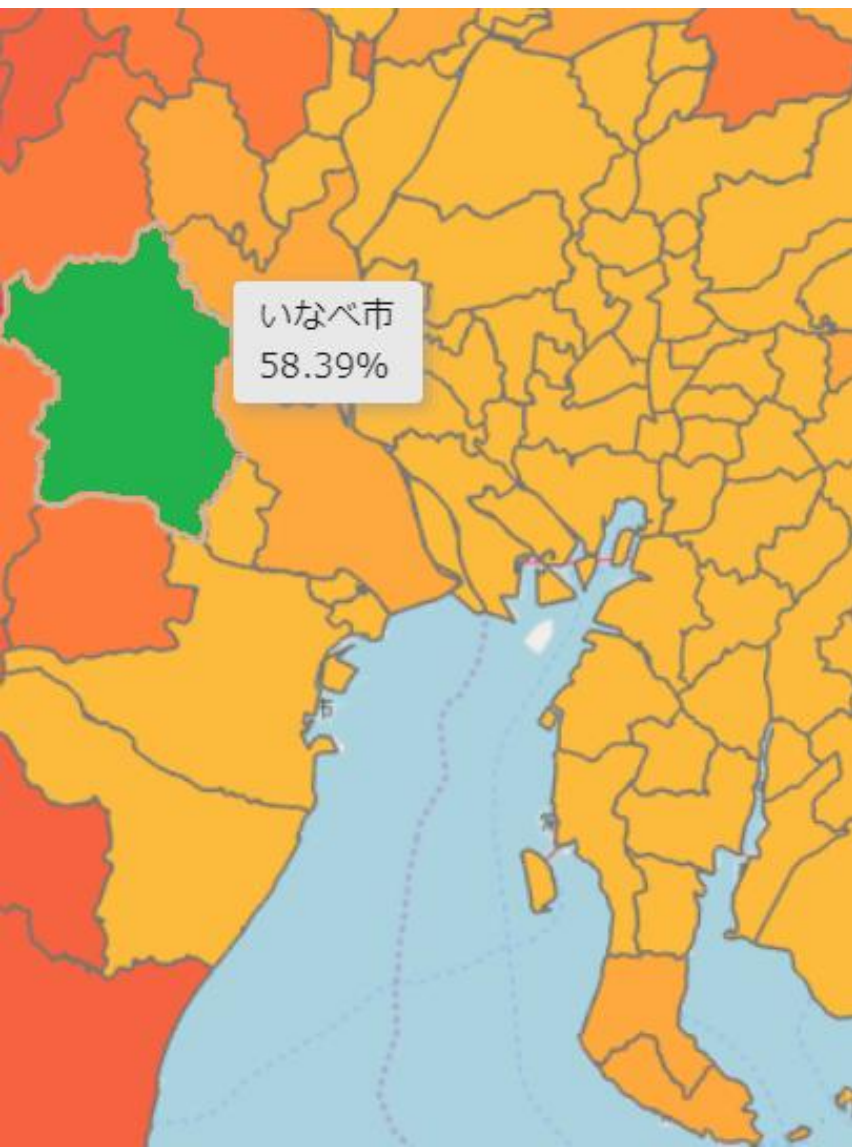
いなべ市における山と人口メッシュ

いなべ市は西側に鈴鹿山脈、北側に養老山地がそびえ、その麓に街が広がっている。人口メッシュを俯瞰すると、山に近い部分に人口が少なく、名古屋方面にかけて人口が多い、**西低東高**の状況だ。



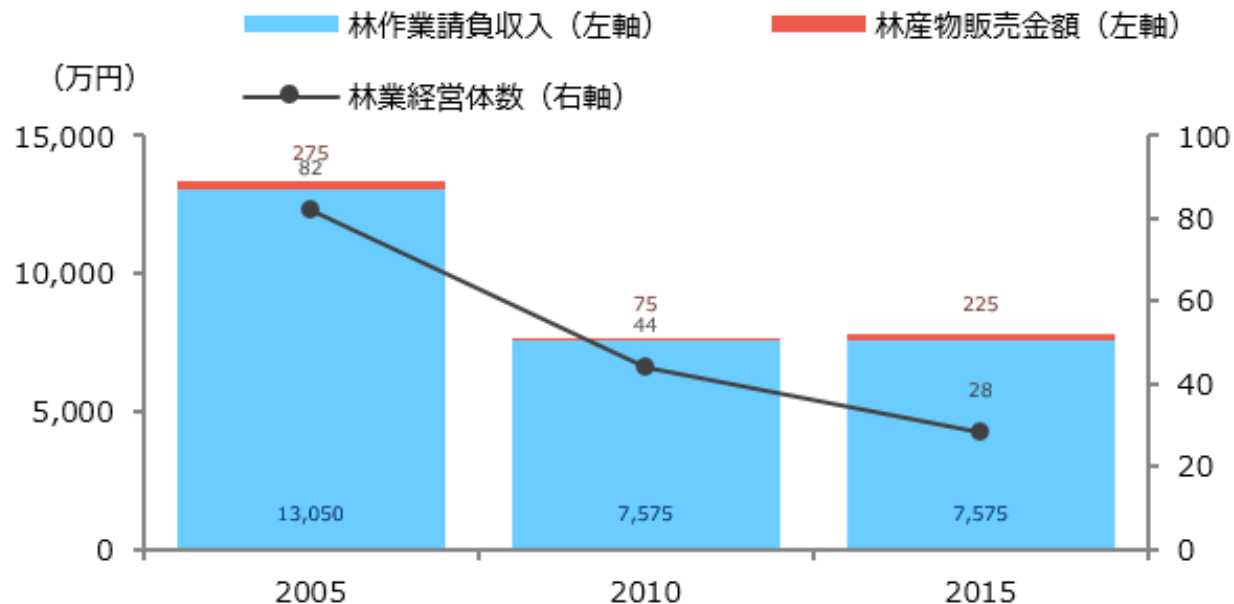
出典: RESAS「人口マップ」2015年、総人口の人口メッシュ

いなべ市の林野率 58.39%



いなべ市の山林の実態

林業総収入・林業経営体数の推移



・林野率58.39%と、いなべ市の面積の大部分を森林が占めている。
しかし、林業の従事者は年々減少している。

→林業従事者の高齢化と減少に歯止めがかからず、森林の荒廃が進む。
土砂災害、獣害等のリスクが大きくなっている。

出典: RESAS「産業構造マップ」林業(2015年)

SDGs未来都市及び東海地区初となる自治体SDGsモデル事業に選定されたグリーンインフラのまちづくり「グリーンクリエイティブいなべ」の深化・広域化。
山の麓を「山辺」として、海辺のようにオシャレ、カジュアル、かわいいをキーワードに開発し、コロナ対策としての「ニューノーマル」と繁栄を実現する。

現状と課題及び分析

分析

コロナ禍の8月以降、
県外から訪れる人が増加
→P6

「観光・旅行」「レジャー・遊び」
のネット検索数がコロナ禍の
8月以降増加
→P7

市内の地域別人口は、
山脈がある西側で少なく、
都市部に近い東側が多い
→P8

市内の林野率は58.39%。
林業の従事者は年々減少。
→P9

・コロナ禍の客数減状態から
回復傾向にある。

・自然豊かないなべ市のアウトドア
は県外からの観光誘客に打って
つけ。
→P6、7

・未整備エリアの多い西側の山
辺に人を呼び込めば、観光広域
回遊が実現できる
→P8

・林業従事者の減少に歯止めが
かからず、森林の荒廃が進む。
土砂災害、獣害等リスクが大きい
→P9



コロナ対策×SDGs
ニューノーマル政策提言

**いなべグリーンフラッグを
山辺まで！**

～強靱化とカジュアルを
兼ね備えた
グリーンインフラが
山辺を変える～

⇒P11～

いなベグリーンフラッグを山辺(※)まで！ ～強靱化とカジュアルを兼ね備えたグリーンインフラが、山辺を変える～



※ 「山辺」とは
山の麓。鎌倉・湘南の海辺から連想、関連付けるイメージとして、「山辺」という言葉を用いる。里山よりは広いイメージで、視覚的に山の存在を強く感じられる場所を指す。

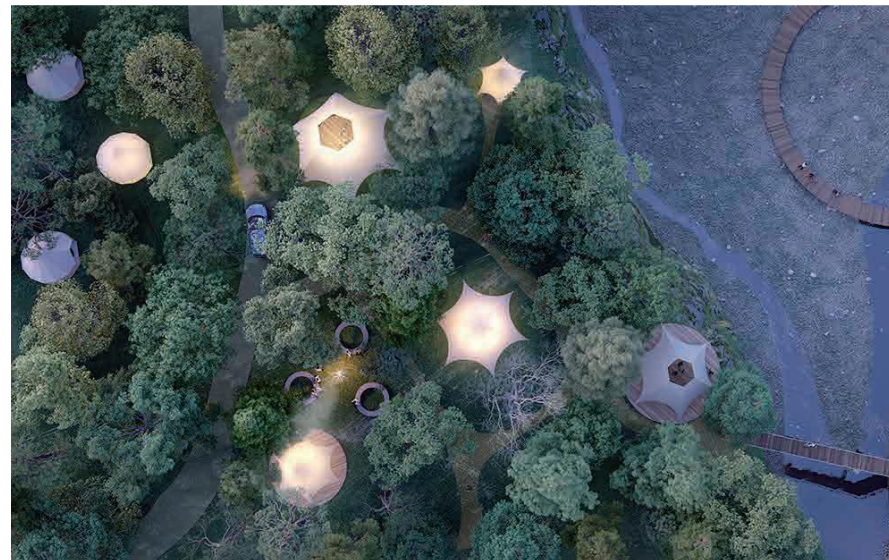
ワクワク、オシャレ、カワイイを放棄された山辺へ



市の中心にある森林放棄地を活用したグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」を先導例として、鈴鹿山脈の山辺に自然や地域資源を活用した「遊び」ゾーンを、官民金連携で設置。
放棄された山辺に、自然活用のアクティビティや地元食材の飲食等店舗群を構成する。

イニシャルコストは、自治体SDGsモデル事業補助金や地方創生の交付金を想定し、運営はSDGs金融(ポジティブ・インパクト金融)を活用した民間企業による自律的好循環を実現する。

先行事業:山辺に北欧ブランドのアウトドアフィールド建設 (地方創生拠点整備交付金など 約4億円)



プレイヤー

- ・地域住民
- ・アウトドアブランド「ノルディスク」
- ・連携企業



北欧の世界観Hygge(※)と雄大な自然が呼応する 三重県いなべ市の地方創生プロジェクト

いなべ市の山辺を代表する宇賀溪に”Hygge(ヒュッゲ)”をテーマにしたアウトドアフィールドをデンマークの有名アウトドアブランド「ノルディスク」と連携し、設立・運営する。

- ・オシャレな山辺の演出により
中心市街地と広域回遊が実現
- ・グリーンインフラとして、防災、
獣害の軽減に貢献

※ **「Hygge」**とは
「デンマーク」の語源で、豊かな時間の過ごし方や暮らし方、心の持ち方を表す言葉。
ほっと癒される心地よい時間と空間、その体験を通して得られる幸福感のことで、近年欧米メディアでも注目されている。

いなべグリーンフラッグを山辺まで！
～強靱化とカジュアルを兼ね備えたグリーンインフラが、山辺を変える～

1. 鈴鹿山脈等の山辺カジュアル化コンセプトのタブロイド紙制作

(一般社団法人グリーンクリエイティブいなべの事業費
約300万円を年間予算として想定)



※この冊子はイメージです

プレイヤー

- ・一般社団法人
グリーンクリエイティブ
いなべ
- ・地元カメラマン
- ・地元デザイナー、ライター

山辺のカジュアルなまちづくりのイメージをPRし、グリーンインフラ商業施設ゾーンを設置する魅力を訴えるタブロイド紙を官民連携で制作。

湘南・鎌倉をモチーフに、SDGs未来都市として「海辺といえば鎌倉・湘南、山辺といえばいなべ市」というイメージ付けを浸透させる。

**いなべのSDGsが目指す
カジュアル、オシャレ、
かわいいのイメージ定着を実現**



いなべグリーンフラッグを山辺まで！
～強化とカジュアルを兼ね備えたグリーンインフラが、山辺を変える～



※この画像はイメージです

2. 未活用の軽トラックがオシャレな店舗に大変身。 山辺に店舗群が出現！ モバイル・ヒュッテ・プロジェクト (自治体SDGsモデル事業補助金 約500万円を イニシャルとして予算想定)

プレイヤー

- ・ダイハツ工業株式会社
- ・一般社団法人
グリーンクリエイティブ
いなべ
- ・地域の特産品販売者

地方で多くの世帯が所有し、十分に活用されない軽トラックを利用。ダイハツ工業とタッグを組み、移動型屋台ユニットを開発して、豊富な山辺資源をカジュアルに、そしてオシャレに演出する。成功事例のにぎわいの森のノウハウを活かして、この仕組みを使えば、いつでもどこでも、山辺はオシャレなマルシェ会場に大変身できる。

**どこか1拠点ではなく、手軽に
広大な山辺ゾーン全体の
持続可能な繁栄を実現。**

いなべグリーンフラッグを山辺まで！
～強化とカジュアルを兼ね備えたグリーンインフラが、山辺を変える～

3. 山辺の地域資源活用による遊びのビジネス化

(一般社団法人グリーンクリエイティブいなべの事業費

約10万円を年間予算として想定

⇒経済的な自立・自律を前提としているため、0円を目指す)



▲地元の薬草・野草の商品化

▲地元の杉を使ったBluetoothスピーカー制作



unplugged

プレイヤー

- ・地域の人たち(主役化)
- ・一般社団法人
グリーンクリエイティブ
いなべ

いなべ市にある鈴鹿山脈等、山辺やその周辺エリアは、地域資源が豊富。

未活用のままになっている薬草、野草、中硬水の湧水(軟水ではないメリットがある)、木材、ジビエ等を使い、山辺ならではの遊びをビジネス化していく。

・都市住民と地域住民の交流が実現
・関係人口や将来の移住者確保へ

4.山辺にカートラベル用敷地の整備

(自治体SDGsモデル事業補助金 約2,000万円などを
イニシャルとして予算想定)



プレイヤー

- ・農村施設を管理・運営する
地域団体
- ・地域住民
- ・キャンピングカー製造会社

- ・低コストで環境に負荷の少ない
インフラを実現
- ・車中泊というSDGs旅行を
いなべ市から全国に普及させる

大災害時の避難場所として、注目されるキャンピングカー。
いなべ市では、三重県津市のキャンピングカー製造会社の株式会社ダイレクトカーズと連携協定を結び、大地震や洪水時にはキャンピングカーを借り受けて、避難場所として活用することとなった。
カートラベルが手軽にできるよう、いなべ市では山辺に電気が利用できる駐車場を造るなど、新たなグリーンインフラ施設周辺に施設を整備する。
平時は、この敷地を車中泊スポットとして観光利用され、有効なまちづくりのインフラとなる。

SDGs未来都市 **oblige**(オブリージュ、**責務**)として

- ・コロナ対策×地方創生SDGsのニューノーマル(新生活様式)としてカジュアルな山辺(グリーンインフラ)によるいなべモデルが、日本をリードする。
- ・金融機関と官民が連携した自律的好循環とSDGs共栄圏の確立

三重県いなべ市から日本を覆うコロナ禍の閉塞感を打ち破る！

